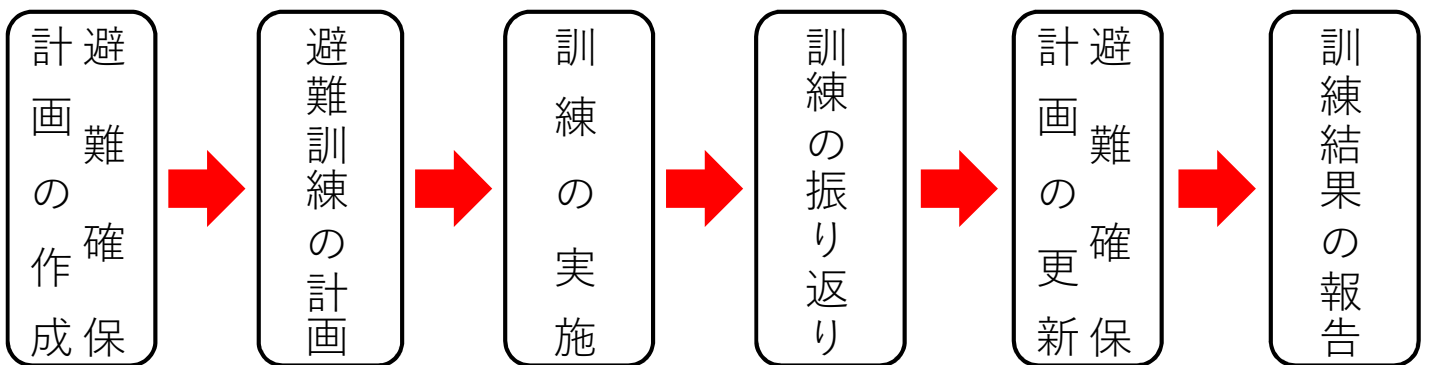


避難確保計画に基づく避難訓練の実施方法

水防法により、
洪水時等における**避難訓練の実施**及び**訓練結果の報告**が義務付けられています。
年度ごとに1回以上の実施をお願いします。

※浸水想定区域内に位置する要配慮者利用施設

●訓練実施の流れ



※訓練は作成した**避難確保計画に基づき実施**してください。

●避難訓練内容の例

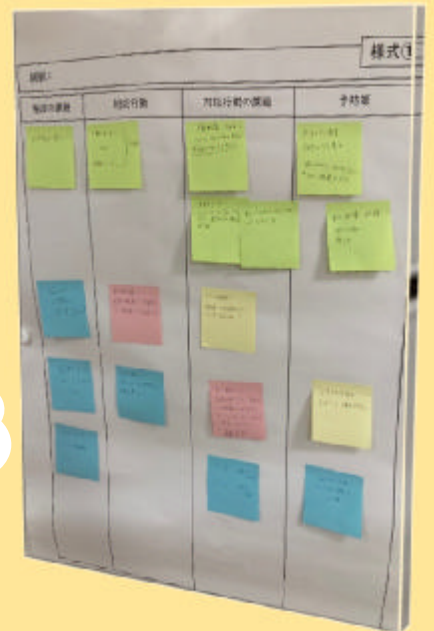
図上訓練（災害状況を想定し、机上で対応する形式）

災害時における施設職員の対応を確認

- 避難確保計画の内容を確認しながら進める。
「いつ」「誰が」「何をするのか」を明確にする。
- 避難確保計画様式2の防災体制について、**施設職員全員が同じ認識**で対応できるようにするために、災害時に発表される情報に伴う施設の対応を確認する。
- 班やチームで対応にあたる場合、その役割等を確認する。



避難確保計画を基に
図上訓練を実施した際の
写真



避難経路や避難スペースの確認

- 避難確保計画に記載した避難先への経路や危険個所の確認などを図面上で行う。
- 避難する場所のスペースや利用者等の配置など、実情に合った避難ができるよう検討する。

避難方法の検討

- 移動手段や順序、避難にかかる時間などを考慮し、避難確保計画に記載した避難先への安全な避難を検討する。
- 引き渡しを行う場合の連絡方法や内容を確認する。
施設外のスペースを使用する場合は、使用許可等が必要か確認する。

情報収集・伝達訓練

「いつ」「どういった情報を」「どのように」収集・伝達するのか確認する訓練

- 避難確保計画様式2の判断材料となる情報の収集方法を確認する。
機器の使用方法、Webサイト等のツールの使用方法、入手する情報(内容)等を確認する。

例) 注意報・警報等の発表状況→気象庁HP「防災情報」

河川の水位状況→川の防災情報(国土交通省)、坂戸市気象観測・河川監視システム

- 収集した情報の共有方法や活用方法を検討する。

例) ・職員間での共有方法や引き渡しの際の連絡内容、手段等を確認し、実際の流れを訓練する。

- 情報の伝達先にも参加してもらおうと、より実践的な訓練になる。

※情報収集手段は多種・多様であるため、施設の状況や特性に合った方法を検討する。

例) テレビ、ラジオ、スマートフォンアプリ、Webサイト、地域のコミュニティ

設備・備蓄品等の確認訓練

避難に必要な設備や備蓄品、持ち出し品を準備・確認する訓練

- 避難に必要な設備の確認をする。
例) エレベーター、階段、スロープ、階段昇降機、非常用電源等
- ストレッチャーや担架等の装備品の過不足や使用可否を確認する。
- 食糧等備蓄品の確認をする。
- いざ施設外への避難が必要になった時の持ち出し品の確認をする。

- いつ使うのか(タイミング)
- どこで使用するのか
また、どこに置いてあるのか
- 数量はどれくらいあるのか
また、必要な数量は確保しているか
- 使用方法は把握しているか
利用者の特性に応じた物資等は十分か



避難経路の確認・立退き避難・垂直避難訓練

避難経路の確認訓練

- ・ 現地を実際に見て、避難確保計画に定めた避難先や避難経路の安全性等について確認する。
- ・ 通行止め等により、設定した経路が通行できない可能性も考慮し、複数の経路を想定する。

例) 経路上に浸水(冠水)する場所はないか
舗装されていない場所や側溝・マンホール等の位置を確認する。



立退き避難訓練

- ・ 避難確保計画に定めた**施設外への避難先**に、施設利用者を避難させる訓練。
- ・ 実災害をイメージし、**限られた人数と役割**での避難となることを想定する。
- ・ **時間設定や気象状況、施設の置かれる状況**を想定する。

例) 雨が強くなりだし、夜間体制で対応する等
※計画に定めた避難先に避難するにはどのような行動が必要か検討する。
計画中様式2で設定した、避難判断に関する情報の発表等避難判断時期を設定する。



出典：国土交通省資料
https://www.milt.go.jp/river/shinngikai_blog/suibouukatsudou_kasseika/dai01kai/

垂直避難訓練

- ・ 避難確保計画で定めた、**施設内において避難**する(屋内安全確保)訓練。
- ・ 垂直避難が可能な条件
 1. 想定浸水深が建物の**2階に及ばない**こと
 2. 建物が**堅牢**であること(浸水した場合流されない等)
河川氾濫による建物倒壊の危険性がある場合は要注意
 3. 施設の**設備や備蓄状況**や**すべての避難者を収容できること**を考慮する
- ・ 立退き避難と同様に、災害時の限られた人数・役割、時間設定、施設の状況をイメージしながら計画する。
- ・ 主に2階以上への避難となるため、利用者の避難だけでなく、**必要な機材等のモノの避難**も考える必要がある。

※垂直避難の場合、避難先が自施設のため、**日頃から環境の整備**が可能。
訓練実施と併せて、環境の整備等を進めましょう。

【本市ホームページをご確認ください】

「坂戸市 避難確保計画」で検索



避難確保計画
ホームページ
QRコード

- ・ 訓練実施結果報告書の様式や記入例
- ・ 避難訓練の**実施方法等**に関する支援資料
- ・ **対象施設**や本市の**提出先**について
- ・ **防災に関するリンク**(情報収集等)

※避難確保計画の作成や訓練の実施について、ご不明点等があれば防災安全課までご相談ください。

訓練の実施にあたって

訓練の実施時期

- 出水期に備えるため、早めに訓練実施計画を立て、出水期前に訓練を実施しましょう。

※出水期

→ 梅雨期の大雨や台風等により洪水が起き

やすい時期：6月1日から10月31日

参加者の設定・役割

- 施設職員、利用者、保護者、避難先等どこまで訓練参加者とするか。
- 地域の消防団や区・自治会、自主防災組織等の支援者の協力を得る。
- 計画に定めた役割分担で不足がないか確認。

訓練の目的と目標設定

- 訓練の目的と目標を参加者全員で確認する。
- 目的には、実施する訓練で確認しておくべき事項を設定する。
目標には、被災時に達成すべきことを設定する。

例) 目的：警戒レベル3 高齢者等避難から1時間以内に避難完了する

目標：施設から避難先までの避難時間を確認する

避難時間・避難開始基準

- 施設利用者全員の避難に要する時間を確認する。



訓練の実施後の振り返り・計画の見直し

- 訓練実施後は、参加者による訓練の振り返りを実施する。
- 意見、課題や問題点については、必要に応じて避難確保計画への反映や避難体制の改善につなげる。
- 特に、避難にかかる時間を把握し、目標時間内に避難できなかった場合は、避難支援の人数や避難のための設備、装備品、車両の台数、さらには避難先、避難経路、避難開始基準について見直す。

提出物

1. 避難訓練実施結果報告書

(計画を修正した場合↓)

2. 避難確保計画作成(変更)報告書

3. 避難確保計画の写し 2部

【提出先】

「対象施設及び計画・訓練結果提出先一覧」をご確認ください。

※訓練実施後、1か月以内を目安にご提出ください。

※訓練を複数回に分けて実施した場合は、まとめて提出することも可能です。